

## プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2013年4月30日】

団体名 NPO法人みたか街かど自立センター

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. プロジェクト名

地域に元気を！！プロジェクト

—障がいのある方々が地域で活動し、暮らしていくための自立生活体験室等の事業—

### 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

※応募申請書に記載のもので可。

現在は家族と一緒に暮らしている方々でも家族の高齢化等で介助力が低下し、いずれは今とは違う生活が求められる時が来ます。今は自分らしい生活とはどんな暮らしなのだろうと意識することはなくても潜在的には誰もそんな可能性を秘めているのではないのでしょうか。それは障がいがあってもなくても同じことだと思います。そこで、宿泊体験等を通して地域社会で自分なりの暮らしを創っていくことを学んでいただくことと、そしてそこで培った力でグループホーム、一人暮らし等の地域生活を切り開いていただくことを目的とします。そのことによって家族の方々の精神的、身体的な負担軽減もできます。

### 3. プロジェクトの内容 300文字まで

- ① 利用希望者を募り、ピアのコーディネーターとの相談、利用契約を行い、ホームヘルパー派遣事業等を活用しながら体験宿泊、場合によっては日帰り体験を行う。
- ② 振り返りを十分にを行い、本人、家族の今後の生活のニーズを深く聞き取り、継続して関係機関との協力のもと本人が望む地域生活の在り様を実現させていく。
- ③ 宿泊体験室の実践を生かして、重度身体障害者グループホーム設立の可能性を追求していく。2011年度の実績の中から新設するグループホーム内に自立生活体験室併設の可能性も出てきました。

### 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

この自立生活体験室を利用していただく中で重度の障がいのある方々の生活全般を支えることの具体的な技術、方法論、精神的サポートの在り様が見えてきました。

浴槽については、バリアフリーの浴槽を設置することができました。そのことにより、入浴後の褥瘡治療のための訪問看護師との連携も行うことができ、そのことがケアホーム実現とこの方がケアホームに入居できることになりました。そして、全介助が必要な重度身体障害のある方が家庭から離れて、自由な時間を自立生活体験室で過ごすことにより、家庭を出てケアホームで暮らしていく決断を促すことができました。

### 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

4. で述べた通り、自立生活体験室の実践が平成25年4月1日ケアホーム「つぼみ」設立に実を結びました。自立生活体験室を利用することにより障がいのある方々の精神的自立を促し、身体的ケアの技術を学んだことがケアホーム設立に繋がりました。

今後もこの自立生活体験室の実践を続け、新しいケアホームの実践・経営に挑戦していきます。

### 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし